

□ J P A 震災情報（第 26 報） -----2011.4.14-*

-----発行：日本難病・疾病団体協議会（J P A）事務局

患者団体、関係者のみなさんへ

J P A 震災情報「第 26 報」をお届けします。

震災から 1 ヶ月が過ぎて、避難している人たちはもちろん、直後から被災地で献身的に働き続けている支援者、とくに医療従事者の皆さんには、疲労がたまってきている頃です。多くのマスコミがそのことを報じています。これから長く続く復興、再生、新生への道。そして、未だおさまらぬ余震と原発の脅威。そんななか、東北大学と福島県腎協からのメッセージを紹介します。

（水谷）

★東北大学病院神経内科の青木正志先生からのメッセージです。

難病ネットワークとやまの中川さんを通じて、みなさんによろしくとのメッセージでしたので紹介します。

パーキンソン病の方で今回被災された方も多くおられます。大切な家族や家を津波で流された方も多いですが、今のところ宮城県内は何とかなっている状況です。石巻地区は斉藤病院、気仙沼地区は大友病院、仙南地区は宮城病院が機能しており、仙台市内をはじめとする内陸部や山形市に避難している方もいらっしゃいます。この中では斉藤病院が最も苦戦を強いられています。今後何かありましたらご連絡をさせていただきます。どうぞ皆様へよろしくお伝え下さい。

東北大学神経内科 青木 正志

◎東北大学病院は、東北地方の医療の拠点病院の一つとして被災直後から被災地での医療の再建のために活動を続けている病院です。神経難病の東北での拠点病院です。3月中は、被災地域への医師の派遣に力を尽くし、4月に入ってから、足りない医療器具を、全国の支援で確保するなど、青木先生をはじめ、医師や看護師、医療スタッフ全員が、献身的に奮闘をされています。今は、医療従事者に疲れがたまってきているとのことで、最近必要なのは、劣悪な医療従事者の食生活改善のための栄養価の高い、レトルト食品や100%野菜ジュースだそうです。しかし、これも、次の段階では、必要な物資が変わってきます。

◎富山から東北へ「今必要なもの」支援ルートで物資供給
（「難病ネットワークとやま」の活動）

難病ネットワークとやまの中川さんたちは、その都度変わる「今必要なもの」を買い集めて、東北大学に送る活動をはじめています。中川さんたちは、東北大学病院に必要な物資を送るための支援金募金の口座を開設しました。病院に必要なものは、刻々と変わります。中川さんは、青木先生からその都度必要なものを具体的に聞いて、富山市内で買い集めるボランティアを組織して活動をはじめています。お志のある方は、ものではなく、お金を、次の口座まで振り込んでください。よろしくお祈いします。

振込先は郵便局で

特定非営利活動法人難病ネットワークとやま

00710-8-56431

近く、支援の様子をブログでも紹介していくそうです。

★福島県腎協・機関紙号外「福島県の透析患者の皆さんへ 5」

福島からの生の声が届きました。添付しますが、視覚障害のある方のために、全文、テキストにして紹介します。

（以下、全文）-----

お願い 会員・未会員を問わず、避難している方にも全員に配布して下さい

タイトル「福島県腎協 機関紙号外」

福島県の透析患者の皆さんへ 5

■未だに続く震度6の余震

4月11日、12日にいわき市を中心に震度6の余震が続きました。再開間近の大規模なクリニックも配管の問題が発生して、再開が早くても来週に延期となったようです。

過去最大の地震ということで、余震も未だに震度6が襲ってきます。人間の力ではいかんともしがたい天災の脅威、そして人間の作り上げたものの儂さを感じざるを得ません。

皆さんは、自分の身体は自分で守る意識を持ってもう少し我慢していきましょう。きっと平穏な日々が戻ってくることを信じて。

■医師、看護師、スタッフの皆さんの覚悟、そして私たちの想い

4月11日の余震の際（午後5時15分ごろ）、私は透析に入る直前で透析室でうろうろ

していました。そこに郡山には震度5強の余震発生。私の29年の透析生活でも初めての大きな地震で、本当は心は驚天動地（シャレではないよ）。ベッドから立ち上がる人あり、声を出す人ありで結構緊迫しました。その中で、看護師さんたちは落ち着いて、機械とベッドを支え、「大丈夫ですから」とすでに透析に入った患者に声をかけていました。スタッフには若い人からそうでない人まで様々おられましたが、一様に落ち着いて患者を守ることに専念していました。自分のことより患者のことを真っ先に守ろうとする姿に感心いたしました。

彼らは、「白衣」を身につけると同時に、「覚悟」を身にまとうのだなと思いました。普段は普通の人であり、女性であり、男性であるはずですが。地震が来れば、テーブルの下に隠れたり、外に避難したり大騒ぎをすることでしょう。しかし、ここ病院、透析室の一員になった時（白衣を身につけた瞬間）から医療者となり、心には「覚悟」を身につけ、その信念を持って看護に一身を捧げているのです。私たちはこの様な医療者の崇高な精神のもとに守られて、生命をつなぐ透析を行っています。日頃、透析は医療と患者と制度が相まって成り立っていると言っている私たちにはできることもあるはずですが。それは、透析室の覚悟あるスタッフの指示に従って、勝手に騒がず、勝手に判断せず行動することではないでしょうか。そのことが、地震の災害から身を守り、スタッフが最大限その覚悟を、その信念を発揮できる状況を支えることが出来るものだと思います。 私たちも透析に入っている時は、その程度の覚悟を身につけて過ごしましょう。少なくともこの緊急事態の間は。

■いわき市短信

昨日ネットを見ていたら、塩屋崎では灯台と美空ひばりの記念碑は奇跡的にもがれきの中で健在だと載っていました。碑の前に立つと「髪の乱れに」が流れるそうです。また、波立海岸では、あの初日の出で有名な鳥居が健在のようです。自然の脅威の中で残っているものもあることに感心するとともに、早く行ってみたいといわきに心を馳せていました。

■今は「がんばろう」とは言わないよ

すでに震災から1ヶ月以上が過ぎて、避難生活をしている方も限界に近づいているのではないのでしょうか。避難地区に戻っていく人たちもたくさん見受けられるようです。ですから、もう「がんばろう」とは言いません。目一杯がんばって今日まで過ごしてきました。これ以上何をがんばれと言うのでしょうか。「がんばろう日本、がんばろう福島」というスローガンが何処かしこに貼り付けられています。原発が収束して、がんばれば次に進める事態になった時、その時こそ私たちががんばる番です。福島の皆さんは未だ現在進行形の災害にさらされているのが現実です。がんばらなくてもいいですから、日々変化していく状況を「冷静に、しかし過大にならず、悔ることなく」判断して行動していくことが必

要です。今はそういう時期です。我慢しすぎない、がんばり過ぎない、冷静な行動を心がけましょう。

■福島県腎協では

福島県腎協では24日に運営委員会を開催して、総会中止（文書による総会）、大会中止（長期透析表彰、記念品などは送付する）、東北ブロック交流会中止を検討することになっています。ですから会員の皆さんとをつなぐこの機関紙はできるだけ毎週発行して、会員、患者の皆様とともに進んでいく福島県腎協である続けたいと考えています。皆さまのご協力を宜しくお願いします。

★みなさまからの情報をお寄せください。

◎緊急な場合の連絡は水谷の携帯（090-8501-4281）までお願いします。

なお、メールは随時チェックしています。

J P A ホームページ <http://www.nanbyo.jp/>

震災情報ブログページ <http://blog.goo.ne.jp/jpa2011>

（こちらに声をお寄せください）

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

日本難病・疾病団体協議会（J P A、Japan Patients Association）

事務局長 水谷幸司

〒162-0822 東京都新宿区下宮比町 2-28 飯田橋ハイタウン 610 号

電話 03-6280-7734 F A X 03-6280-7735

<http://www.nanbyo.jp/> jpa@ia2.itkeeper.ne.jp
